石山軍記

上

石山軍記

下

石山軍記巻之二目録

一 信長公本願寺攻事
一 沢井城合戦之事
一 下辻村合戦之事
一 沢井城修羅通之事
一 信長公本願寺之通路為開事
一 乃家之由緒号御之事

酒井家文庫

いれ候ハ度も信長の中意対り那仕事人と存之有く
大坂てハ信用なりなれハ和睦調ハ至しく事なりく
西使ハ論なれる コレヨツテ山田信長金子ヲモテ公上ハ天下ウ弱ヲ
（同三年ノ不和ノ加ハ天正元年九月ヨリ和睦ノ公天正八年ナレハ不和ト有リ般信長

織田と石山と和睦之事

天正八年閏三月織田と本願寺と和睦調ヲ成れハ信長密に京都
へ上り公に申されるハ当年ハ大坂と不和にて合戦成し及人
皇帝勅を以の軍なれハ為し時の変出来ハ王城空虫
なし依て和睦せんと為られ教寺を誘と合ミられハ和二てハ調
難し勅を以て和睦仕度ニ申されハ公帰り申人様王那近
衛殿の勅命を以と申し思召られハ仕方奏聞申されハ
る 時二人王百七代正親町の院叡聞ニて近信実白庭
四大納言勅使を中納言大坂（石山）へ有く本願寺大坂と近信
長ニ成し和睦ヲなり何国とも本願寺建立有る度しとの勅
宣人信長も誓詞と（稲葉又右衛門尉 右京亮 虎十代ヲ大坂
近和二和願寺、為使の勅書ヲ加ニ家老下間丹後守 法橋下間
頼廉 法橋下間少進法橋国三月七日血判領状 誓ハ和談
和睦三人の勅使ハ帰京なられる依て如上人天正八年
四月九日大坂ヲ出立ス紀伊国雑賀の森（根来）へ移りなられる城信長
の使ヲ以て 摂州伊丹人城主 矢部善七郎七月九日大坂到着有り和睦成の人
人家成申ス本願寺 顕如 隠居 和泉の国平ヲ十ヶ所の寺
篭り人ニ今日ヲ限りニ用ヲ石住居ハ出ル様ニ
蓮如上人の遺書割り八十ヶ条ハ法の要諦一字ヲ以ても
焼もせるなり 然ハ西教寺 摂州住吉郡 生玉大坂ノ門下の通路 焼
名ハ大坂ハ門下の通路 焼

（信長城ハ北ハ方ヨリ三十八丈迄十一年ニ成如上人ハ天文十二癸卯生れ玉ヒ文禄

此年文禄癸巳九月廿一日教如上人ヲ法名ヲ付ル 同十一月十
四日准如上人位牌ヲ立ル 西方日記 徳正寺 自筆ノ月日記有 教如上人ハ
大権現家康公の内ヲ出ル 依て別教如ヲ名ノリ 本寺ヲ別ニ
て組師の本縁ヲ寄附 一ヶ所ノ一家の住持ヲ立
す社れ 寺ヲ已来ノ東西二家の本寺ヲ相分ル 西教寺
同谷金輪記ノ東福庵同若七條 焼 迷集ノ
記ノ有ル 故帯り不記 雙系
年角の繁栄順逆場上の弘化不窮 其の見地
ヲ打ル 八天下ヲ思ル 両国御 翔ル双羽 可知

石山軍記大尾

時天明六 午年八月廿一日

坂井新田 移記 星九